

組曲「都筑風土記」3

つきでまつ あき
月出松の秋

加羅古呂庵 一泉

2020.6.6 作曲

1尺8寸管

尺八I

口 ピ

1尺8寸管

尺八II

口 ピ

花雲調子

箏 I

三 一 三 五 七 九 斗 為 巾

花雲調子

箏 II

三 一 三 五 七 九 斗 為 巾

十七絃

二 三 五 七 九 1 3 5 7

運指、奏法については、適宜工夫していただいてけっこうです。

自然が豊かで歴史のある横浜市都筑区の風景をテーマとして、「古民家の春」「大塚・歳勝土の夏」「月出松の秋」「山田富士の冬」「都筑の風」の5曲を作曲しました。いわば「都筑風土記」として、組曲のように5曲通して演奏してもいいですし、演奏する機会・場所に依じて、1～2曲ランダムに演奏してもいいでしょう。

月出松の秋

横浜市都筑区は遊歩道が整備されていますが、その南側の遊歩道は、早瀬カナリア公園から加賀原バス停まで8.7kmに及んでいます。その終点近くに「月出松公園」があります。

「月出松」は、もともと「朧松」という松があって、地名（字名）になっていたといいます。ところが、遺跡の調査が行われた際には、「月出松遺跡」となっていました。縦書きから横書きにした際に、「朧」を「月出」にしてしまったのかもしれませんが、それはそれで情緒のある名前になったともいえます。

「朧」の意味は、三日月。あるいは、明け方の薄暗いさまをいうそうです。月を見て暦を測っていたころは、月の満ち欠けを新月から数えたのですが、新月だと月が出ているのかどうか分からないので、実質的に三日月が月の出を知る始まりだったようです。

そうであるならば、「月出松」の月は三日月であるはずなのですが、「月出松公園」の石の銘板には、満月の中に兎がいる陶板がはめ込まれています。字も変化しましたが、月も三日月から満月のイメージに変化したようです。

「月出松公園」自体は、平凡な丘です。その土の下には「加賀原遺跡」が眠っています（「月出松遺跡」は別のところにあるので、ますますややこしくなります）。縄文時代中期、およそ4,500年前の集落の跡だといいます。その丘の一部に小さな森が残されています。松はないのですが、足を踏み入ると、何とも居心地のいい森です。

この曲を、三日月をイメージして聴くか、満月をイメージして聴くかはご自由にどうぞ。